

**研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型
スタートアップ・エコシステム形成支援**

2022年度採択プラットフォーム

本予算 中間報告書

「Peace & Science Innovation Ecosystem」

2024 年 12 月 11 日

I. プラットフォーム名、主幹機関、共同機関 等

プラットフォーム名	Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)
主幹機関	広島大学 【総括責任者】 広島大学 学長 越智 光夫 【プログラム代表者】 広島大学 副学長(産学連携担当) 大学院医系科学研究科・教授 田原 栄俊
共同機関	岡山大学、島根大学、愛媛大学、徳島大学、高知大学、香川大学、鳥取大学、広島市立大学、叡啓大学、県立広島大学、広島修道大学、安田女子大学、岡山理科大学、川崎医科大学、※周南公立大学
評価対象の活動期間	2022年6月15日～2024年6月30日

※周南公立大学は 2024 年 6 月に参画のため、中間評価の機関別実績には含まない

II. 活動の概要

中四国におけるスタートアップ創出の機運を高めるべく、主幹機関が各大学を往訪し、当初7大学で始まった PSI を 16 大学まで拡大した。

アントレプレナーシップ教育や FD (Faculty Development) を充実するため、アントレプレナーシップ委員会を立ち上げ、各大学間で好循環を作り出す仕組みを構築した。

本エコシステムを持続可能なものとするため、ひろしま好きじゃけんコンソーシアムの運営等を行った。会員数は令和 4 年度末の時点で 21 機関、社団法人化前の時点で 65 機関、令和 6 年 6 月 30 日時点で 93 機関と増加している。本コンソーシアムは、エコシステムにおける資金源や連携ネットワークの役割を果たしている。

III. 活動内容と成果

1. スタートアップ・エコシステム拠点都市として目指すビジョンに対する貢献

スタートアップ・エコシステム拠点都市【推進拠点都市】に選定されている広島地域イノベーション戦略推進会議は、広島型イノベーション・エコシステムのコンセプトとして、「平和都市として世界に知られる広島は、あらゆる社会課題の解決を目指し、未来に向けて、世界の人たちに、元気・勇気を与えるイノベーションを生み出していくエコシステムを構築します。」を掲げて、イノベーション立県として、「新しい産業が生まれ育ち、社会経済情勢や市場の動向に、柔軟かつ的確に対応できる状態」の実現を目指している。

本予算では、令和 3 年度補正予算で行った GAP ファンドプログラム(今後はスタートアップ・エコシステム共創支援プログラムで実施)へ研究者を接続するためセミナーや起業活動支援プログラムを実施した。

また、他機関とも相互に連携することによって、PSI の研究者への起業支援を充実させた。さらに中四国当初 7 大学により立ち上げた「アントレプレナーシップ委員会」は、令和 6 年 6 月末時点で 16 大学が参加しており、計 11 回開催した。委員会ではカリキュラムの相互開放や FD に関する意見交換をすることで、学生が必要なアントレプレナーシップ教育を受講できる環境整備について議論し、加えて教職員のスキルアップについても議論した。

起業環境の充実のため各大学において相談窓口の設置や規程整備プロジェクトの発足を行った。

このように起業を考える上での下地を醸成することで、スタートアップ・エコシステム拠点都市として目指すビジョンに貢献した。

2. 起業活動支援プログラムの運営

令和 4 年度に JETRO が公募した「国内大学と海外大学の連携によるスタートアップ向け アクセラレーションプログラム等の企画・立案・実施」事業に採択され、テキサス大学オースティン校(UTA)と連携した、アクセラレーションプログラムを実施し、30 名が受講した。受講者の中から選抜された広島大学の研究者等 5 名と PSI エ

コシシステムの運営に関わる職員 2 名を約 2 週間テキサス州オースティンに派遣し、現地のインキュベーターやアクセラレーター等と面談・商談することで、米国の起業支援機関からメンタリングを受けられる体制を構築した。

主幹機関から共同機関を個別訪問し、参画機関関係者と将来ビジョン等の共有を図った。

研究者の起業マインド醸成および GAP ファンドの認知度向上を目的として、PSI 研究者向けセミナーを 7 大学(広島大学、愛媛大学、岡山大学、島根大学、県立広島大学、叡啓大学・広島市立大学)で実施した。外部から講師を招き、起業がキャリア形成に成りうる旨と外部環境等を説明した。当該セミナーに、総数 233 名が参加した。

当初 7 大学で始まった本プラットフォームは、2024 年 6 月の周南公立大学の参画により 16 大学まで拡大し、エコシステムを中四国の全域に拡大するに至った。

研究者向け起業活動支援は、基本的にスタートアップ・エコシステム共創プログラムで行い、本予算ではそこへの接続を促す一方で、学生に対する起業支援を今後充実させることとする。

3. アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等

〈本プログラムを通じて目指す人材育成像〉

PSI では、広島大学がこれまでに EDGE プログラムでアントレプレナーに必要な能力として定義した「7 つの力」(共感力、変化力、行動力、強靭力、検証力、洞察力、創造力)に、新たに「3 つの心」(自然を大切に作る心、自分と関する人を幸せにする心、自分を大事にする心)を加えた“平和希求型”イノベーション人材養成を目指している。

〈プログラム運営〉

広島大学及び中四国地域を代表する 16 の大学が、カリキュラムを相互補完・共用することで、体系的な教育プログラムとなることを目指している。

大学が各地域の自治体、地元企業及び金融機関等と相互に連携を図り、学生や社会人にも公開することにより、カリキュラムの相互公開が進むとともに、大学と地域社会が一体となって社会課題の共有・解決できるプロセスが確立された「PSI アントレプレナーシップ人材育成教育プログラム」を実行しようとしている。

本プログラムは、「Stage」を 4 つに分けている。

「Stage First」では、入学した全ての学生の中で、広島大学や広島市立大学の「平和希求プログラム」は広島独自のプラットフォームでの活動を通して平和希求を目指す平和希求型ベンチャー創出に必須なプログラムであり、全ての受講者の受講が可能である。加えて、課題発見・解決型 PBL などによりアントレプレナーシップのマインドセットが醸成されている。

「Stage Second」では、大学院生を中心に、起業や企業経営に必要な基本的な知識・スキルを身につけることができる。

「Stage Third」では、多様性のなかで起業の実践能力が育まれ、また、学生が自らの研究成果を社会実装するための PoC を実践するプロセスに教職員もコミットし、大学の研究成果の社会実装を促進する大学全体の風土が形成されている。

「Stage Fourth」では、中四国地域固有のシーズオリエンテッドな研究等を参加大学が共有して、フィールドワークや自治体、金融機関等と連携したピッチコンテストを行っている。

他大学で実施しているプログラム内容を可視化し、相互開放を伴う学生交流が促進することにより、教員のアントレプレナーシップ教育に関する知識レベルや教育スキル等を向上させることによる、FD にも貢献できている。

なお、各 Stage のプログラムの受講にあたっては、事前に教育プラットフォームなどオンライン機器やネットワーク構築による DX を利用した「アセスメント」を実施する。

これらを実施することで、7 つの力の習得と 3 つの心を醸成する「PSI アントレプレナーシップ人材育成プログラム」を確立する。

〈進捗状況〉

令和 4 年度に、PSI アントレプレナーシップ委員会を発足し、定期的に開催し、令和 4 年度については計 6 回の委員会を開催した。

委員会では、プラットフォーム内の参画機関における、既存のアントレプレナーシップに資する正課講義や非

正課のプログラムを洗い出し、整理した。また、各大学において、それぞれ独自のアントレプレナーシップ人材育成プログラムを実施するとともに、PSI内の他参画機関からも参加者を募る等の連携を行った。

令和5年度は計4回の委員会を実施した。持ち回りで開催することで、大学間の事務負担を分散させ、可能な範囲で施設見学などをアントレプレナーシップ委員会のプログラムに組み込んだ。

各大学の実情を共有し、それぞれ特色のあるプログラムがあることを共有する機会とした。

令和4年度で整理したプログラムを試験的に可能なものだけ開放し、アントレプレナーシップ委員会で継続的に議論を行い、学生にとってより有益な形を目指して対応していく。開放科目の受講者から声を拾い、「開放」という手段が適切か(他大学の講義を受講できる機会について)、他にどのような講義があるとよいかなどニーズについても調査を行い、質的向上を図る。また、オンラインやハイブリッドの積極的な活用も踏まえてStage別に効果的な開催方法を各機関で検討していく。

PSIとしてStage別に効果的な教育効果を測定するために推奨科目の選定について議論し、受講者目線でのロードマップ等を作成する方針。

4. 起業環境の整備

各大学において起業に向けた相談窓口の設置や関係諸ルール等の整備について対応を検討した他、Slack等を活用することで、必要に応じて各大学間で相談内容を共有して、協力して解決できる体制を構築した。

複数の部署を跨いだ教職員から成るプロジェクトチームを立ち上げて、中四国地域の起業環境の整備について検討を行った。

各大学におけるスタートアップに関する規定整備が急務であり、規程整備プロジェクトを新たに立ち上げた。

令和5年9月28日に「広島大学きてみんさいラボ」にて、PSI参画機関が集まり決起集会を行った。

起業に向けた相談窓口と関係諸ルール等の整備は、それぞれの機関において実施するものではあるが、困りごとが生じた場合にPSIの参画機関同士で情報や知識、経験を共有し合うことによって、各機関における検討や対応の負荷を減らすことが可能となった。

設備機器についても、各機関において整備したものを共同で利用できる体制を整備していくことによって、持続的かつ効率的に維持・運用できる仕組みを検討していく。

5. 拠点都市のエコシステムの形成・発展

PSIでは、本プラットフォームを中四国地域のスタートアップ支援を一元的に支援する組織とし、広島県を中心として作り上げたエコシステムを中四国地域の他の自治体にも提供することを目指している。

各機関において、大学・産業界・自治体等との連携やネットワーク構築を進める取組みを積極的に実施することによって、中四国地域全体としてエコシステムの構築に取り組むことができた。

広島大学、ひろしま好きじゃけんコンソーシアムと共同しエコシステムを形成する機関として、設立されたベンチャー向けに投資を行う「広島大学発ベンチャーキャピタル」の設立へ着手した。

令和3年10月に立ち上げた「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」を令和5年7月に一般社団法人化し、産学官金の連携を加速、拠点都市エコシステムの形成・発展に貢献した。令和6年6月30日時点での参画機関数は93となっており、持続的運営を行うための資金確保に資する。

上記の活動結果が、本項目である「拠点都市のエコシステムの形成・発展」に繋がっているものと思われるため、実績をベースに活動内容をブラッシュアップしながら、新たな連携先等を探すことでネットワーキングを強固にし、研究者・学生の起業支援・アントレプレナーシップ教育を確立させる。